

川内高校たち、  
ありがとうございました

私が出会うことのできたすべての方が、これまでに経験したことのないほどの忍耐強さと優しさを持って接してくださいました。

「やさしい」という日本語だけでは、とても表しきれません。その気持ちをもっと的確に伝えられる言葉を、私が持っていないことが残念です。

最後の日、私は慌ただしく学校を出てしまいました。外でははるかが待っていて、駅では琴葉が待ってくれていました。

校長先生方や、拙い日本語にも根気強く向き合ってくださったすべての先生方に、きちんと感謝を伝えられなかつたことが心残りです。

留学生として川内高校に迎えていただけたことは、これまでの人生で最も大きな誇りの一つです。

毎日学校へ通ったこと、ホストファミリーと一緒に過ごした素敵な登校時間、そして最上階の美術室から見た景色—そのすべてが、今では恋しい思い出です。

けれど、学校で一番恋しく思うのは、私を導いてくれた仲間たちの存在です。

私が通った二つのクラスには、数えきれないほどの友人がいて、皆すぐに優しく迎え入れてくれ、学校生活の一つひとつを支えてくれました。

本人たちは気づいていないかもしれません、たとえ数人であっても、心から迎え入れてもらえることが、どれほど大きな意味を持つかは計り知れません。

私は毎日、孤独を感じることなく過ごせるようにしてくれた皆さんに、感謝していました。

いつか、必ずこの街に戻ってきたいと思っています。そのときには、この美しい学校で過ごした日々を、懐かしく、そして誇らしい思い出として振り返ることでしょう。

私を受け入れてくださり、滞在中に私が抱えたさまざまな課題にも向き合ってくださり、本当にありがとうございました。

留学生になるという夢を叶えることができたことは、私にとってかけがえのない経験です。  
そして川内高校は、その夢を実現できた、私にとって特別な学校であり続けます。

— エブリン・ローズ・オルドリッチ  
(薔薇 エブリン)